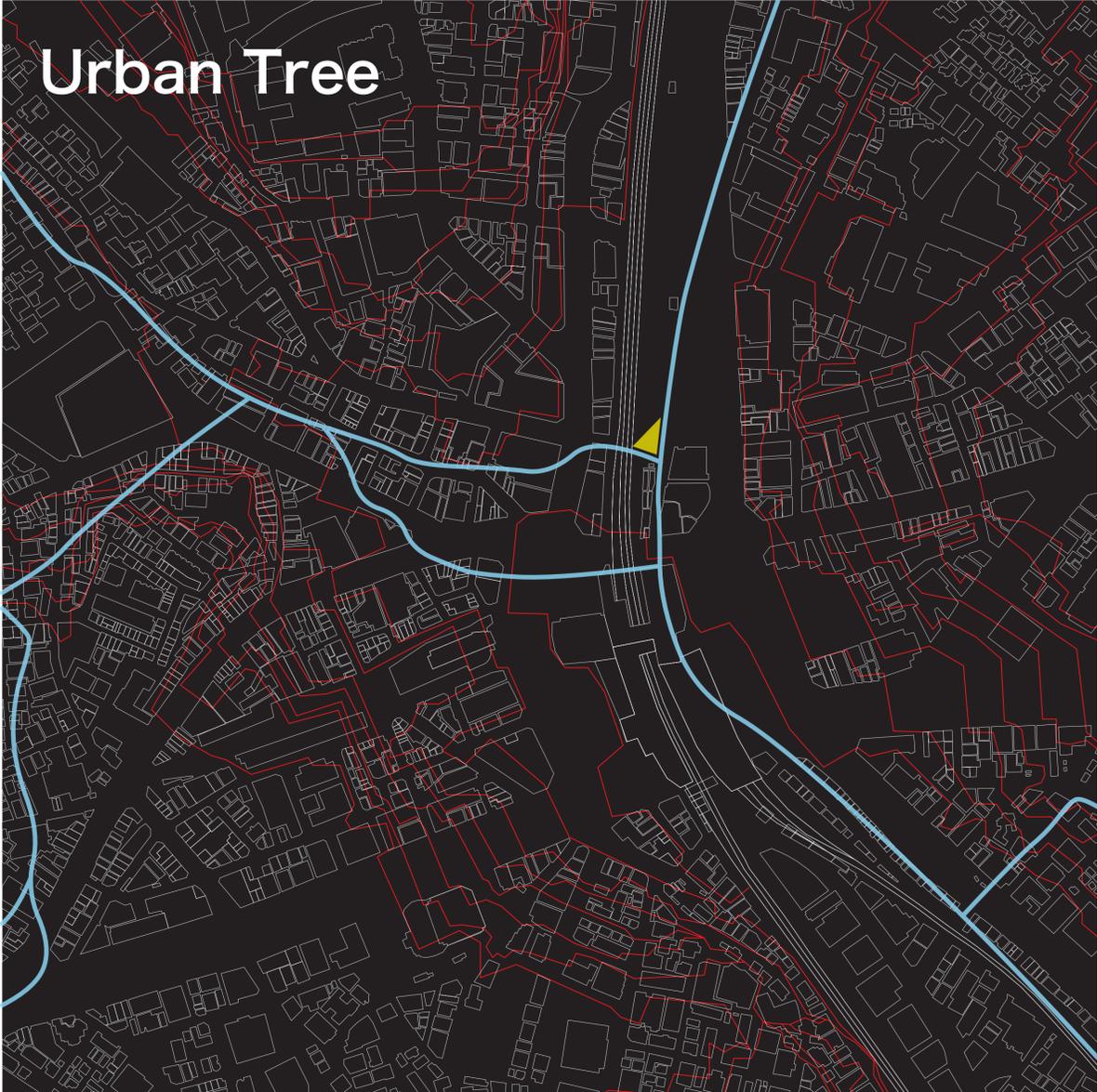


Urban Tree



Site Plan S 1:2000

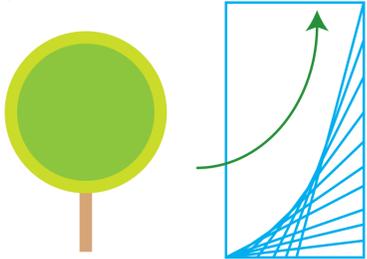
「箱梁（あんきょ）」——道路の下などに埋められてしまった河川、おそらくそがかつの河川であったことなど、人々は忘れてしまったのではないだろうか。都会の中で今も脈々と流れている。それは今日における渋谷でも起こっている事である。

渋谷川と宇田川の合流地点付近にこのダムは建つ。カーテンウォールには無数のパイプがついており、今なお知られぬ川へと繋がる。そこから吸い上げられた水は厚さ 2000 ミリのスラブへと充填されていく。

このビルディングタイプのダムの用途は「水を貯水する」こと以外に「農業を研究する」と言う用途も持ち合わせている。消費率は高いのに自給率は極めて低いここ東京にて、自給率の向上をはかる。ここには貸し農園があり、随時農作物の生産を行う事が出来、さらには各階に自生している標高ごとに合わせた高山植物の研究も同時に行う事によって、寒さや感想に強い、ハイブリットな農作物が生まれる事を期待したい。

最後にこのダムは「水」を直接視認することは困難である。しかし、「植物」という媒体を介することによってさらに豊かな水のあり方が生まれる事を期待したい。

ファサード



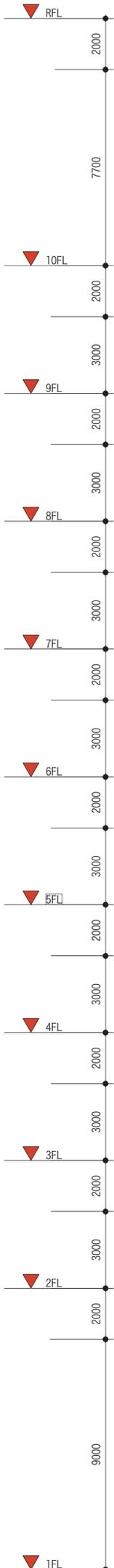
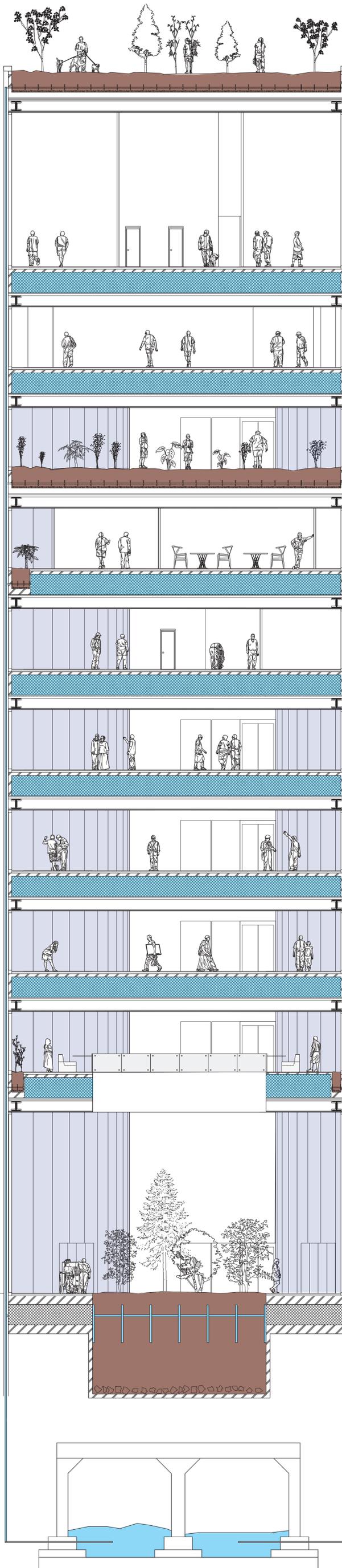
まるで根から水を吸い上げる樹木のように、カーテンウォールからのびる無数のパイプが暗渠の水を吸い上げる。

プログラム

11F 展望ホール	
10F 研究室	
9F 実験室	
8F 貸し農園	
7F 教室	
6F 図書館（会議室）	
5F 図書館（軽読書+勉強）	
4F 図書館（軽読書）	
3F カフェ・レストラン	
2F ラウンジ	
1F エントランスホール	

各階に自生する高山植物

山の縮図 —— 階を上昇するにつれ、標高の高い植物となる。



Section S 1:100